

平成 26 年度第 1 回大阪府立豊中高等学校協議会 議事録

日 時 平成 26 年 5 月 15 日 (木) 16:00~18:00

場 所 校長室

出席者 (敬称略)

委 員 西澤信善 (近畿大学客員教授)、越智克司 (豊陵会副会長)、福家孝 (PTA 会長)、  
杉本彩二郎 (豊友会幹事)、岩元宏司 (塾執行役員)

事務局 校長、教頭、事務長、中井首席、上林首席、池田指導教諭、羽柿進路指導主事、朝倉 SSH 開発  
研究委員長、伊藤英語科主任

1. 校長あいさつ
2. 自己紹介
3. 会長選出 互選により西澤信善氏が会長に選出
4. 会長代理選任 会長より副会長に越智克司を指名
5. 会長挨拶
6. 協 議

(1) 平成 25 年度の進路状況について <羽柿進路指導主事より説明>

- ・ここ 3 年は合格者数が増加している。今年度の特徴としては神戸大の現役生が激増。国公立でも東京工業大学、筑波大など関東圏にも目が向いてきている。自分のやりたいことのために大学や学部を選ぶなど目的意識を持つようになってきた。私立は関関同立が多い。関学進学者数は豊中高校がトップ。立命も相当増えている。茨木校舎の新設が影響か。

(2) 学校経営計画について <校長より説明>

- ・学校経営計画は、平成 21 年度から校長がマネジメントするため、企業と同様に計画を策定することとなった。
- ・まず、本校の目指すものとしては GLHS 指定校と SSH 指定校の継続。
- ・国際社会で活躍する人材の育成として使える英語力の養成する必要がある。このため、本年度からトールコースを先行実施している。また、本年度から SGH (スーパーグローバルハイスクール) のアソシエイト校となった。

(3) GLHS 事業、SSH 事業、SGH 事業の取り組みについて

<トールコースについて伊藤英語科主任より説明>

- ・トールコースについては、来年度からカリキュラムに導入され SET も配置される。本年度は先行実施。
- ・現在は週 4 日放課後に実施しているが、来年は授業に組み込まれる。
- ・SSH や SGH とリンクさせていこう校内で検討しているところ。

<SSH 事業について朝倉 SSH 開発研究委員長より説明>

- ・SSH は文部科学省のプログラム。全国で約 200 校が指定を受けている。本校は、平成 22 年度より SSH の指定を受けて本年度で 5 年目となる。探究活動、授業開発 (SSH 予算を活用した高度な実験)、科学体験 (大阪大学・京都大学への訪問) などを実施。
- ・本年度は、台湾の高校生との交流を実施。今後、海外との連携についても検討。

<志学・豊高プレゼンについて中井首席より説明>

- ・社会貢献できる人材を育てるため平成 24 年度より実施。
- ・柱は 3 つ。異世代交流、異文化交流、支援学校との連携。
- ・平成 24 年度から夏休みに地域の活動に参加するサマーワークを実施。全員参加している。
- ・豊高プレゼンについて最初は音楽会からスタートしたが、本校が GLHS 校となったことに伴い研究発表の機会として 2 年前から実施している。

(4) グローバルリーダーの育成について<校長より説明>

- ・SGH は学校が何を課題にして生徒のグローバル化を図るのかを目的とする。
- ・今回、本校はイスラム文化を打ち出した。内容が難しいため企業や大学と連携して研究することとしたが、本校としてもまだ取り組んでいないため今回は見送りとなった。
- ・今後、英語力を強化し、そうした課題に向き合えるようにすることがリーダー養成の課題と認識している。

(5) 大阪府の教育状況等について<校長より説明>

- ・文部科学省で第 2 期の教育振興計画を策定している。平成 25 年度から 5 年計画で 4 のビジョン、8 のミッション、30 のアクションが動き出している。国としてもグローバルをキーワードにしている。
- ・大阪府の教育振興基本計画も国とほぼ同様の位置づけとなっている。

【質疑応答】

(委員) 文理学科の課題研究について、文系の課題研究はどのようなテーマを選んでいるのか。

(学校) 方向性を提示したうえで、各教科から大きなくりでテーマを与えている。その中で生徒が考えている。

(委員) これからはアジアとの交流が重要。台湾の学生が来たとのことであるが異文化交流をぜひ深めてほしい。  
また、豊高プレゼンはどのような方を対象にしているのか。

(学校) アゼリアホールは約 1,000 人入ることができるが、生徒が 720 名、保護者が約 200 名とほぼ満席の状態。

(委員) 同窓会にも案内をしていただきたい。

(学校) 昨年は学校協議会を豊校プレゼンの開催日に合わせて行い、委員の方にも見学していただいた。同窓会の方にもぜひ来ていただきたい。

(委員) SGH について、海外との具体的な交流はするのか。

(学校) 本年度は見送りとなったが、交流先はインドネシアを考えており、そのための予算も確保されることになる。

(委員) OB なども活用できるのではないか。

(委員) SGH 校との連携をとると聞いているが

(学校) SGH 校とアソシエイト校との連携として 5 月に東京で会議がある。

◆次回の開催日について 9 月 6 日 (土) 16:00～

## 平成26年度第2回大阪府立豊中高等学校協議会議事録

日 時 平成26年7月11日（金）16:00～18:00

場 所 校長室

出席者（敬称略）

委 員 西澤信善（近畿大学客員教授）、福家孝（PTA 会長）、杉本彩二郎（豊友会幹事）、  
岩元宏司（塾執行役員）

事務局 校長、教頭、事務長、中井首席、上林首席、池田指導教諭、羽柿進路指導主事、伊藤英語科主任、  
教科主任：綾城、伊田、勝又、文部、下向、吉田由、林、伊藤

1. 校長あいさつ
2. 会長あいさつ
3. 協 議

(1) 平成27年度使用の教科用図書について（各教科主任から説明）

### <国 語>

現代文については、難易度が高く評論教材が多いものを選定。本校の国語の方針である「たくさん読ませて、たくさん書かせる。」に適している。古典は、比較的定番教材が多い中、切り口が少し異なるものを選定した。

### <社 会>

現代社会は、自学自習が重要。教科書を選択する観点としては、独力で読んでもわかりやすいこと。偏りがなくまんべんなく記載があること。日本史・世界史は、受験に定評のあるものを採用。地理は定番のものを、政治経済は、現代社会と同様にまんべんなく記述のあるものを選定した。

### <数 学>

数学は数1、2、3と繋がっているため、2年生、3年生は1年生の時に採択したものを継続して使用。新1年生については、発展的な内容があり、問題集や参考書も多い出版社のものを選定した。

### <理 科>

教科書は、図や写真が適切で生徒がイメージしやすいもの。また、自学自習ができることや発展内容が盛り込まれているものを選定した。

### <保健体育>

昨年度に新カリキュラムとなった。教科書は持ち歩ける資料や素材の適切さ生活との関連を考慮し、かつ難易度の高いものを選定した。

### <芸 術>

書道の教科書も最近はカラフルになってきた。本校においては、日本史や世界史の教養も必要となることから、文章量も多く丁寧に説明しているものを選定した。

### <英 語>

コミュニケーション英語は読解力が中心となる。英文の質の高さや分野が多岐にわたっているかなどの観点から選定している。英語表現については、文法中心となる。スピーチやプレゼンなど発展的な力を付けられるかどうかの観点から選定した。

### <家 庭>

調理実習や被服実習がメインと思われる方も多いが、今は、少子高齢化、社会保障、環境問題など多岐にわたっている。このため、教科書については従来の衣食住以外の部分についても充実

した記載のあるものを選定した。

#### <情 報>

社会と情報を1年生で1単位、2年生で1単位合計2単位勉強している。実習と問題解決能力を重要視している。教科書は復習しやすいように文書が多めの構成のもので、課題研究など他の教科との連携も考慮して表計算や文書作成、レポートの作成の仕方等について記載のあるものを選定した。

#### (主な質疑応答)

Q：教科書は毎年変更するのか？

A：教科により異なる。

Q：学校により教科書は異なるのか？

A：学校により異なる。

Q：学年が進行するたびに教科書の出版会社が異なっても問題はないのか？

A：学年ごとに学習内容が変わるので特に問題はない。

Q：教科書が変更になった場合の効果の検証はしているのか？

A：教科書の検証をすることは難しいが、教科書はあくまでも教材の一つにすぎず、使う教材が異なっても生徒には一定レベルの教育をしている。

#### (総 括)

先生の経験や判断を基に適切な教科書を選定しているものと認められる。特に問題はなくこれで進めていただきたい。

#### (2) 授業アンケートについて (校長より説明)

授業アンケートについては、昨年度から年2回実施することになった。昨年度の1回目のアンケート結果では、全教員の平均点は3.10(最高4点)となっている。グラフの形としては、上の層と下の層とで差がある場合には傾いたグラフとなるが、本校の場合はそれほど傾きもなく良い形になっている。

2回目は少し傾きが出ているものの、平均点は3.15と改善されている。点数は、生徒アンケートと校長が授業を観察して評価している。評価は教員の給与にも反映されている。

#### (3) 学校教育自己診断について (校長より説明)

自己診断結果は、学校に対するアンケートを実施して総合的に学校力を高めるツール。毎年9月にアンケートを実施しており、生徒は30項目、保護者は25項目、教職員は42項目となっている。

本校の場合、生徒、保護者、教職員で評価が大きく変わることはない。ただし、生徒指導については、生徒及び保護者と教職員とで思いが少しずれている部分もある。本校の特徴としては、道徳・人権教育への捉え方が低いので、本年度は人権教育を中心にやっている。

#### 4. 次回開催日について

次回からは、事前に資料を配布してほしい。開催日は10月下旬から11月上旬で調整。

以 上

## 平成26年度第3回大阪府立豊中高等学校協議会議事録

日 時 平成26年12月22日(月) 16:00~18:10

場 所 校長室

出席者(敬称略)

委 員 西澤信善(近畿大学客員教授)、越智 克司(豊陵会副会長)、福家孝(PTA 会長)、  
杉本彩二郎(豊友会幹事)

事務局 校長、事務長、上林首席、池田指導教諭、羽柿進路指導主事、伊藤英語科主任、  
宮野2年学年主任、吉田1年学年主任、朝倉 SSH 開発研究委員長

1. 校長あいさつ
2. 会長あいさつ
3. 協 議

### (1) 平成26年度学校教育自己診断について

本年9月に学校教育自己診断アンケートを実施しました。設問は全部で30項目ありますが、そのうちの「学校へ行くのが楽しい。」の設問ではややあてはまる以上が90%を占めており生徒は学校生活をエンジョイしていることが読み取れます。

次に「豊中高校に入学して良かったと思っている。」についても肯定的な評価がされており、この2つの回答から生徒の豊中高校に対する評価は高いものと思われま

す。また、設問30項目のうち19項目について昨年と比較して評価が上がっています。「教材や指導方法に工夫が感じられる。」という設問は前年度と比べて10%も改善しているなど先生の努力が感じられます。

・「命の大切さや社会のルールについて学ぶ機会がある。」の設問については、他の項目に比べ70%肯定というのはあまり評価が高くないと思いますが、その対策はどうされていますか。

→ 人権学習の一環として各学年で講演等を行っています。対応として弱い部分もあり、今年度より強化しています。また、事象があった場合には学年集会等を行い、迅速に対応しています。

→ いじめについては、学校として、年2回いじめに関するアンケートを実施しています。アンケートからはいじめはありませんが、なにかトラブルがあったときには先生に相談できるような環境の整備はできています。

・生徒の回答でGLHS事業については全員に浸透していないようにアンケートからは見受けられませんが、これはどう考えておられますか。

→ 全員がGLHS事業に関わっていないこともあり、浸透していない部分もあると考えます。今後できる限り多くの生徒が参加できるように工夫していきます。

### (2) 平成26年度第1回授業アンケートについて

・授業アンケート結果の平成25年度との比較では、全般的に前回と比較して若干の改善となっています。特に、「先生は生徒の授業に対する理解を深めるために、教材を工夫している。」の設問については改善率が高くなっています。特に工夫がされていることはありますか。

→ 本校の先生は全体として非常に丁寧であり、それが評価につながっているのではないかと考え

ます。また、授業アンケートの結果について、各教科には課題と課題に対する改善方策について振り返りシートを提出させています。(各教科の教諭から各教科の課題と改善方策を委員に説明。)

### (3) 1年間のまとめ、提言(グローバルリーダーのあり方)について

(学校側よりSSH事業とTOEFL仕様の授業について説明)

SSHについては、5年目を迎え今年が最終年度。現在、来年度に向けて申請を行っているところです。SSHのベースは理系ですが、課題研究は理系だけでなく文系も充実していく必要があると認識しています。

このため、本年度はSGHの申請を行いました。認定はされなかったもののSGHアソシエイト校となり、現在は、来年度の認定を目指して申請の作業を行っているところです。

来年度から豊中高校においてはTOEFL仕様の授業を実施する予定です。80名程度の生徒を対象と考えています。授業については、1年、2年、3年で英語の授業は6時間ありますが、そのうち2時間をTOEFL仕様の時間に充てます。指導はSET(スーパーイングリッシュティチャー)が行う予定です。

#### <まとめ・提言等>

- ・ 豊中高校の生徒はよく挨拶をしてくれます。モラルが高いことはいい学校の条件。勉強だけができてダメ。モラルの高い生徒を育ててほしい。
- ・ 英語については、将来全員が英語を必要とする職業に就くわけではないが、日常的な会話はできるぐらいの力はつけておいた方がいい。
- ・ 先生と生徒とのコミュニケーションは大事。困ったときに頼られる先生になってほしい。
- ・ 地域との連携は重要。豊中高校は阪大とも近くて恵まれています。中学にも豊中高校の影響を広げて行ってほしい。
- ・ SSH、GLHSの取り組みを全校生徒に認識してもらいたい。
- ・ 進路については、生徒が早めに決めることができるようにサポートをお願いしたい。
- ・ 授業評価で生徒の評価が上がっていることについて、先生の努力は大変なものがあったと思います。この努力を維持していただきたい。
- ・ 豊中高校の取り組みを生徒や保護者がどう評価しているかは、このアンケート調査の結果によく表れていると思います。結果として高い評価を得ており、現在、校長先生以下が取り組んでおられる改革をその方向で進めていただきたい。

### (4) その他

大学入学者選抜改革について、資料に基づき説明。